

第11回ローカルベンチマーク活用戦略会議

知的資産経営研究会inTohokuの取り組み

2021年5月27日

知的資産経営研究会inTohoku

代表 及川 朗

知的資産経営研究会inTohoku について

- 2018年5月発足（仙台市）
- 知的資産経営による東北地方の中小企業等の経営力向上のため、専門家および支援者の知的資産経営マネジメント力の向上を目的とする。
- その後、福島支部（2019年5月）、青森支部（同年10月）が発足。
- メンバーは中小企業診断士ほか各種士業等、企業支援者などに東北局担当職員を加えた約60名。仙台支部、福島支部では毎月1回、青森支部では4半期に1回勉強会（例会）を開催。

1. 例会の内容

<事例報告>

- ・主に当会会員が支援した事例の報告（同行者も報告）
- ・2月は大阪の研究会会員が作成した報告書の事例
- ・5月は支援した企業様にお越しいただき、知的資産経営による取り組みのご紹介

<https://www.chitekishisan.net/>



中城建設(株)結城社長以下3名に来訪いただき
支援後の動きをお聴かせいただいた

<演習>

- ・ヒアリング、価値ストーリー、ターニングポイント

過去1年間の例会開催内容(仙台) 場所:東北経済産業局会議室(+Online)

年	月日	主テーマ
R2	6/8	福島県企業の事例報告（ロカベン：小規模事業者、採石業）
	7/13	ロールプレイング（ヒアリング演習）
	8/12	福島県企業の事例報告（ロカベン&知的資産経営報告書：鋼材卸売商社）
	9/14	岩手県企業の事例報告（ロカベン：食料品製造卸売業）
	10/12	福島県企業の事例報告（ロカベン：会計事務所）※産業資金課より4名ご参加
	11/9	11月1日開催の勉強会&ワークショップ振り返り
	12/14	価値ストーリー作成演習
R3	1/13	宮城県企業の事例報告（知的資産経営報告書：自動車解体業）
	2/8	マネジメントラボプリーズの事例報告（知的資産経営報告書：コンサル業）
	3/8	トリドール社長の講演CD聴講（沿革の3分割、ターニングポイント把握の演習）
	4/12	宮城県企業の事例報告（ロカベン：パン製造販売業）
	5/10	宮城県企業の事例報告（知的資産経営報告書：建設業）

- ・企業名：中城建設株式会社 ・所在地：仙台市宮城野区
- ・創業：昭和21年 ・代表者：結城 創
- ・資本金：100百万円 ・従業員：35名
- ・事業内容：建築工事、一般戸建て事業（無印良品の家）不動産賃貸管理業 等
- ・ホームページ：<http://www.nakashiro.co.jp/>



知的資産経営報告書作成に取り組んだ経緯

現社長が事業承継の際、ビジョン作成に向けて自社歴史（強み）の振り返り、将来展望を意識していた時に、知的資産経営の考え方と出会う。

取り組んだ結果、良かった点

- ・事業の取捨選択の判断につながった
- ・トップダウンではなく、従業員自らが自分事として会社を考える貴重な時間
- ・従業員マインドが前向きに、そして、行動が能動的に変化
- ・積極的にチャレンジしていく風土、体制に変化
- ・新事業が複数スタート（ファンド事業や企業主導型保育園事業など）

我が社にとって知的資産経営とは

目に見えない資産に気づいて、それを活かしていくという作業

→ 知的資産経営報告書作成のプロセスに、

今後の展開を切り開くチャンスとヒントがたくさん詰まっていた

報告書はゴールでもあるが、スタートライン

2. 例会以外の内容

- ・第1回ローカルベンチマーク体験ワークショップ & 勉強会 (2020.11.1)
- ・知的資産経営WEEK共催 (2019.2.28、2021.2.10)
- ・特別勉強会 (テーマ: 見捨てられた地方工場)
- ・「勝手に作る知的資産経営報告書」開始 (2021.5.14)

地元企業4社をお招きしての ロカベン体験ワークショップ



同日、大阪の専門家の方を 講師に勉強会を実施



業績向上へ強みを把握
仙台 知的資産生かす体験会

財務諸表に表れない自社の強みを把握して業績向上につなげてもらうと、経営指標「ローカルベンチマーク」を学ぶ中小企業向けの体験ワークショップが1日、仙台市青葉区の帝国データバンク仙台支店で開かれた。

新型コロナウイルスの影響の中で、頑張る企業を支援しようと、中小企業診断士の関係者、同社社員らでつくる「知的資産経営研究会」が「東北」が企画。仙台市や周辺自治体に本社を置く4社が参加した。

人材や技術、組織力、ブランドイメージなどの強みを「知的資産」と捉え、研究会のメンバーが参加者に聞き取り、ローカルベンチマークの表の項目に合わせた業務内容や重視する取り組みの背景を掘り下げた。

参加者からは「日々の業

務は自身の経験が基になっていると分かり、社員に説明する上でも参考になる」「自分で強みは分かっていたつもりだったが、俯瞰して見ることができた。なぜこの感想が上がった。研究会は2018年発足。勉強会やワークショップを重ね、中小企業が知的資産を経営に生かせるように、支援や助言ができる人を増やしている。

及川代表は「企業としての取り組みに興味と価値を理解してもらう機会になった。強みを知って、自走する力が湧いてくる」と思ふと話した。

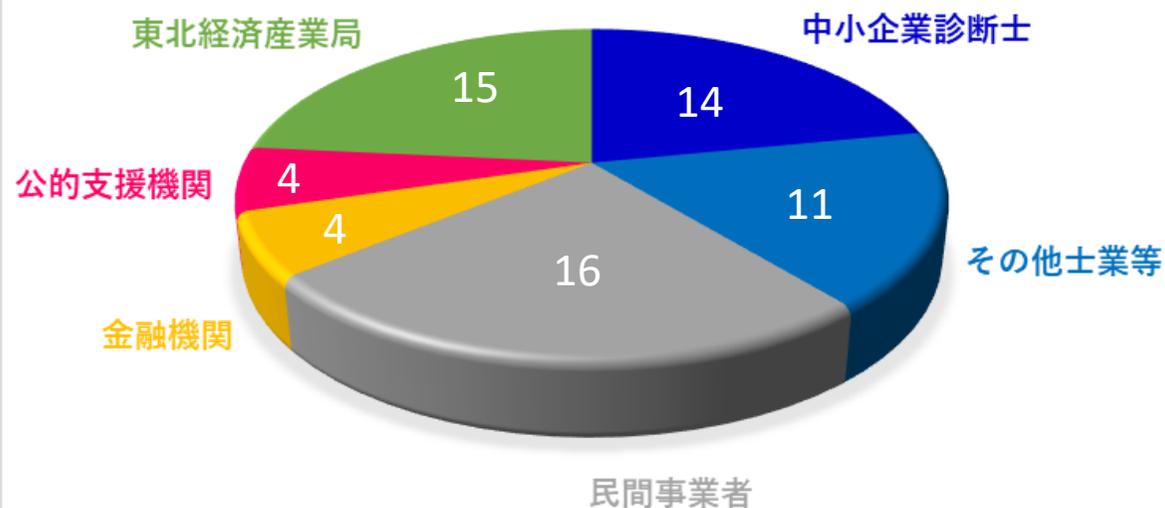
業務で心掛けていることなどを参加者から聞き取る及川代表 (左)

地元の新聞社により紹介されました
(2020年11月3日河北新報経済面)

知的資産経営研究会inTohokuのメンバー構成

中小企業診断士に限らず、知的資産経営の支援に関わる幅広い職種の方々に構成されている。

研究会員の構成



その他士業等

- ・行政書士
- ・社労士
- ・税理士
- ・会計事務所職員
- ・士業ではないコンサルタント業

民間事業者

- ・知的資産経営の支援を提供している事業者
- ・公的事業を受託して知的資産経営・ローカルベンチマークを地域企業に提供する事業者

公的支援機関

- ・市町村役場、商工会議所、よろず支援機関

知的資産経営研究会inTohoku所属メンバーによるロカベン実施状況

	事業①	事業②	事業③			事業④	事業⑤	継続		
	2016年	2016年	2017年～			2019年～	2019年～	2019年～	2020年～	
事業主体	経産省	東北経済産業局					宮城県	民民契約		
受託事業者	T社	N社	C社	P社	T社	P社	—	—		
支援対象	金融機関	金融機関	中小企業			支援機関	中小企業	金融機関	支援機関	
協力者（紹介者）	—	—	金融機関	金融機関	支援機関	金融機関	—	金融機関	—	
ロカベン実施件数										
専門家（開始年度）	小計									
専門家A（2016～）	107	2	3	2	64	15	0	4	13	4
専門家B（2018～）	27	0	0	0	13	0	2	1	5	6
専門家C（2020～）	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0

公的事業を企画する人、受託する人、現場で実施する人、全ての方々が学ぶ姿勢を持って取り組んでおり、三位一体となったロカベンを実施している。

知的資産経営研究会inTohokuの今後の取組み

開始済み、計画中のイベント等

- 知的資産経営サミット開催(仙台) 2021.11.27
- 知的資産経営WEEK共催
- 知的資産経営体験ワークショップ(福島、青森、宮城)
- 勝手に作る知的資産経営報告書の完成

課題、力を入れていきたいこと

- 会員数増加の取組み
 - ・診断士等の士業はもとより、民間事業者、金融機関、公的機関への参加の呼びかけ
- 岩手、山形、秋田での勉強会の開催